

From this liquid / the people produced the purple dye.
= an ancient people living ...

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を, 誤っていれば×を記入しなさい。

1. People have often regarded color purple as a symbol of wisdom. ()
2. The dye for the color purple was made from a certain kind of snail. ()
3. The liquid used to make the dye gives off a bad smell. ()

覚えておきたい表現

regard A as B 「A を B とみなす」

ℓ.1 : The color purple has often been **regarded as** a symbol of wealth and power 「紫という色はしばしば富と権力の象徴であるとみなされてきた」

• The color purple has often been regarded as ... : regard A as B の受動態の完了形で, 「A はこれまでずっと B とみなされてきた」という意味になる。

Ex. All members of the committee **regarded** his opinion **as** the most reasonable. 「その委員会の人々は皆、彼の意見を最も穏当とみなした。」

Ex. He will be **regarded as** the greatest pitcher in the Pacific League. 「彼はパシフィックリーグ最高の投手とみなされるようになるだろう。」

名詞+現在分詞「…している(名詞)」

ℓ.3 : An ancient people **living** along the coast of the Mediterranean Sea first discovered how to make the dye 「地中海の沿岸に住んでいた古代の民族は、染料を作る方法を最初に発見した」

• An ancient people living along ... 「…に住んでいる古代の民族」: 名詞の後に現在分詞を置いて「…している(名詞)」という意味を表すことができる。現在分詞は「…している」という能動的な意味を持っている。

Ex. Do you know the girl **playing** the piano? 「あなたはピアノを弾いているその女の子を知っていますか。」

the place where ... 「…する[した]場所」

ℓ.8 : If we visit **the places where** the dye was produced, we might still be able to see the shells of Murex snails. 「その染料が作り出された場所を訪れば、アケキガイの殻を今でも見ることもできるかもしれない。」

• the place where the dye was produced 「その染料が作り出された場所」: この where は関係副詞で、場所を表す名詞の後ろに置き「…する[した](場所)」というように、場所などを表す名詞を修飾することができる。

Ex. This is **the place where** the famous poet was born. 「ここは有名な詩人が生まれた場所です。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

・紫色: 富と権力の象徴

◆ ℓ.2 **but** 「しかし: 逆接」

その染料の起源は優雅とはいえない。

・紫色の染料の歴史

・地中海沿岸に住む古代の民族がアケキガイから染料を作る方法を発見。

・アケキガイは悪臭を放つ液体を分泌する。→これが空気や光に触れると、発色して染料になる。

→ 染料を作っていた場所に行けば、アケキガイの貝殻を見ることができるかもしれない。

(筆者の本音) その匂いは残っていないといいが。

背景知識

●古代日本の貝紫染め

地中海のアケキガイから取れた染料を使った染色法は、古代フェニキアを起源とし、特にローマ帝国の皇帝がその染色法による織物を好んだことから「帝王紫」と呼ばれてきた。この染め方は地中海だけでなく、メキシコや古代の日本でも行われていたとされる。日本最大規模の弥生時代の遺跡、吉野ヶ里遺跡(佐賀県神埼市・吉野ヶ里町)にある、弥生中期~後期の墓から出土した染色布がこの染色法にまさしく従ったものだということがわかっている。

さらに、縄文時代にも同じ染色法が行われていた痕跡があるという報告がある。大森貝塚を発見したことで有名なエドワード・S・モースは、チリメンボラという貝の貝殻の一部が砕かれた状態で発見されたこと、チリメンボラがアケキガイの仲間であることに着目して、縄文時代の日本において早くも貝紫染めがなされていた可能性があるかと推理した。

なお、のちに「江戸紫」などの伝統的な染色の手法に用いられたのは植物の紫草である。

【深めたい人に】山崎青樹『古代染色二千年の謎とその秘訣』(美術出版社, 2001年)